

発行：伊藤秀昭事務所
豊橋市東田町西前山144-14

発行日：2007/春
NO.71

ひであきレポート

現場主義に徹して20年！



私の議員活動は「ひであきレポート」とともにありました。初当選直後の昭和62年5月に「ひであきレポート」第1号を作り、いまや第71号。

そして、地域の中へ、市民の中へ、配り続けて、20年！。炎天下の日も、寒風の中も、「ひであきレポート」をかかえて、黙々と歩いてきました。

どこまでも生活現場主義に徹して「市民の目線」で、地方政治に真正面から取り組むために。

今、再び豊橋への熱き思いをたぎらせて、改革の先頭に立って頑張ります！



行政改革といえば「減量・人減らし・節約」だけが強調されますが、大切なのは、「積極的な行政経営」だと考えます。

地方政治の現場にはムダ使いを徹底的に省き、市民にとって大事なものにはきちんと対応していくメリハリのある行政評価が不可欠です。

民間企業で徹底した品質管理手法を身につけた伊藤ひであきは豊橋の行政改革をリードし続けてきました。



土のにおい、庶民のにおい、現場のにおい。政治家が少なくなったと言われる中で、どの人が真に現場の声を代弁し、住民のために仕事をしてくれるのか・・・このことが問われています。

人々の喜びや悲しみ、苦しみ分が分らずして地の通った政治ができるはずがありません。

「知恵は現場にある」。伊藤ひであきが「三八朝市」に立つのは、そのためです。

目指します！市民が輝く豊橋！

広域連携の推進で三河市構想の具体化。
行政経営の時代に相応しい市役所改革。
次代をになう人づくり、教育環境づくり。
長寿を喜べる地域福祉、介護予防の推進。
新530運動で、豊橋を環境先進都市に。
新産業創出と強い農業で地域経済活性化。
防災・防犯対策で安全・安心の街づくり。

市民相談は伊藤ひであきへ
電話 53-3483



10年前に開設したホームページは、アクセス数が10万件を超えました

<http://www.itouhideaki.com>

携帯電話<http://www.itouhideaki.com/indexm.html>



3月議会の論議から

広域連携で、合併の機運を

渥美半島での新田原市の発足、豊川市を中心とした宝飯三町の動き、また、4月に人口80万人の浜松市が政令指定都市となるなど、周辺自治体の合併への動きは活発。そうした中で東三河一体の合併問題への豊橋市長の考え方を聞いた。

市長は「上からでなく、住民発議による主体的な合併が生まれることが大事だ」との持論を展開し、「農業共済組合の統合や防災の広域連携などが進む中で、可能な分野から連携していく。それが住民発議の主体的な合併につながる」と答弁。

「合併はどこまでも住民主体の生活の都作りが最優先である」ことを市長に確認しました。

全低床車両導入に全面支援

来年導入予定の全低床車両LRV導入を支援するために新年度に「地域公共交通活性化基金」が設置されます。



豊鉄はすでに国産の独創的なオリジナル車両(約2億5000万円)を発注。国・市の補助はその半分、残り1億2500万円の事業者負担分を軽減するために、市民や企業の間で寄付金運動の受け皿として、この基金が設けられることになりました。

伊藤ひであきは「レトロ電車の運行に全国からファンが集まっている。念願の競輪場前停留所も完成し、路面電車は豊橋の貴重な活性化資源である。この基金は市民協働のまちづくりの大きな試金石であり、何とせよ成功させよう」と訴えました。

旧多米小校舎を文化財に



多米町にある民俗資料収蔵室は昭和19年に建てられた旧多米小学校舎であり、市内に唯一残る木造校舎。貴重な民具を3500点収集、映画「早咲きの花」のロケ現場にもなり、週末の開館日には多くの来場者がある。

「この建物の保存と活用を！」との伊藤ひであきの提案に教育部長は「この建物を国・県の文化財に指定されるような取り組みをしていく。そのためにも保存するための調査から始める」と約しました。

実現しました！あなたの声を

安心、安全



阪神大震災を教訓に提案し全戸配布された「地震ハザードマップ」。大阪池田小事件を契機に提案した「校区見回りさん」「子供見まもり隊」など具体化しました

路面電車

「駅前電停」開設、「競輪場前電停」設置、岩田運動公園に「駐輪場」設置、赤岩電停に「駐車場」設置など路面電車を生き返らせました。

朝倉川



「朝倉川を守る会」のみなさんと朝倉川の清掃活動を積み重ねて18年間。市民2000人が参加する「朝倉川530大会」に拡大しました。

女性・子育て

市民病院に「女性相談室」、校区市民館での「子育てサロン」の開設など女性・子育て支援の仕組みを具体化しました。

行政改革

市長などの退職金の減額や職員の勤務手当の見直しを行い、行政の無駄をはぶくための仕組み(行政評価システム)を作り、市役所改革に取り組みました。

余熱利用施設

伊藤ひであきがライフワークで取り組む、豊栄町の資源化センター帯の「エコビレッジ(豊橋環境村)構想」。今年10月1日に余熱利用施設がいよいよオープンします。温水プール、温浴施設、アスレチックジムなどの機能を持った待望の施設です。乞う、ご期待！



昭和22年1月岐阜県生まれ。コマツの営業マンとしてブルドーザーなどの販売戦線を奔走。働きながら通信教育で創価大学を卒業。昭和54年、転勤で豊橋へ。昭和62年市議会議員に初当選。市監査委員、福祉教育委員長などを歴任。現在5期目。

まじめに働く人が報われる社会を！